

# 大学人としての長きにわたる貢献に感謝

—森宮勝子教授への謝辞

理事長・学園長 島田 燐子

本学の教学担当副学長でかつ経営学部の重鎮の森宮勝子教授が、本年度をもってご定年退職されることになりました。本学での先生のご活躍とご貢献を想い、はなはだ残念ではございますが、大変お元気にこの日を迎えられたことを何よりも喜ばしく存じます。

先生は、明治大学大学院 商学研究科博士課程を修了された後、1982年に本学園が設立した文京女子短期大学 経営学科に助教授として着任され、活動を開始されました。同学科が1991年に文京女子大学（現 文京学院大学）経営学部となりました折には教授として参画され、1997年の同大学院設置の際には大学院教授資格を得られて、学部、大学院教育のマーケティング分野を索引して活躍をされてこられました。従いまして通算32年の長きにわたり短期大学・大学・大学院とご貢献くださったベテラン教授であります。

先生のご貢献は数多いのですが、3つの観点から述べさせていただきます。

まず、大学行政への貢献であります。全学教務委員会が長かったことから、直近の4年間は、教学担当副学長として大学の「将来構想委員会」「内部質保証委員会」、さらに「自己点検・評価委員会」を委員長として見事にまとめてくださいました。本年2013年度は本学が「大学基準協会」の第2回目の大学評価を受審すべく委員長として全学教職員を総指揮してスムーズに大事業を遂行していただきました。大学は、今や4学部9学科の規模になっておりますので、教職員の皆様にそれぞれの部署で適切な仕事をしていただくだけでも容易なことではありません。しかも今回は「PDCAサイクルを廻して点検・改善を行っているか」という、これまでとは違う点検を求められました。また「外部評価の導入」や「根拠データの整備」等もあり、前年からかなりの準備が必要でしたが、これらを乗り切りよい評価を得たのも、先生の的確なリーダーシップの発揮によるところが大きかったと思います、感謝に堪えません。

第2に、大学人であることを自覚されてご自身の研究分野において真摯な研究者として研鑽を積まれたことでもあります。先生の研究分野はマーケティング、消費者の行動と心理ですが、特筆すべきは70年代の早い時期から高齢化社会の研究を始められ、「介護ビジネス」という新しい分野に取り組みされました。2000年の介護保険開始ころから様々な問題が出てきたこの分野をいち早く研究対象とされ、『高齢社会の介護ビジネス』（千倉書房、2005年）で明治大学から商学博士号を取得され、今も中高年の消費者行動、介護事業経営等の分野の学会で活発な活躍をされておられ、敬意を表するところです。

第3は、教育者として熱い気持ちを持ち続けられ、生来の明るく暖かい心で多くの学生を教

え育ててこられたことです。

先生は学部や大学院で「マーケティング」や「消費者行動」の講義をされたばかりか、「ゼミナール」でも多くの学生を指導されました。私たちの身近なヒット商品を取り上げられる先生の授業は、学生の関心を惹き、楽しいと評判でした。授業だけでなく森宮ゼミナールも人気は高く、様々な研究テーマの相談にのられ、学生の背中を押されて研究発表等も積極的に行われておいででした。「ゼミは一生の財産」という経営学部のモットーに相応しい指導をされ、素晴らしい師弟関係を構築されているとお見受けしております。経営学部の卒業生から、よく森宮先生のお名前が出て懐かしんでおられるのは本当に嬉しいことです。

ご自宅が町田市と決して近くはなく、通勤も大変であったと拝察いたしますが、土曜日も大学院の社会人クラスの授業を担当されて頑張ってくださいました。先生を支えてくださったご家族の皆様にもこの場をお借りして心からの謝意を表する次第です。

森宮勝子先生と文京学院大学の絆は、誠に強いものがあります。森宮先生には、これからもぜひ本学を見守っていただくことをお願いすると共に、益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。森宮先生、本当にありがとうございました。